

団体名	委員氏名	健康スケール	運動器チェック	その他
船橋市訪問リハビリテーション連絡会	外口委員	口腔機能については、おたっしや度には含まれていないが基本チェックリストの口腔に関する部分（13～15）をそのまま入れる。運動器チェックからはロコモの痛みに関する項目、疲れやすさの項目程度で良いのではないかと思います。回答者が高齢の方なので、項目数はこれが限界かと思われます。 ※運動器チェックは今年度モデル地区へロコモ度テストを中心として行うのであれば、ロコモを中心に考えていくので良いのではないかと思います	既存の評価票として、「手段的日常生活活動度（IADL）」は虚弱高齢者の生活状況を把握できます。それに加え、「おたっしや度チェック」もしくは「ロコモ２５」を合わせることで運動機能と生活機能が把握出来ると考えます。	・既に存在してる評価票は通常の場合、あらかじめその評価票によるデータを分析し、統計上妥当性が認められたものが標準化されたものとして信頼性があるものになると思います。今回の場合、検証実験として行うのであれば分かりますが、ただその場合信頼のおけるデータとして扱うのは検証後となるため、オリジナルの評価票でない方が良いと思います。 ・また、会議でも意見がありましたが、対象者をどのレベルに置いて、追っていくのかを具体的に整理した方がよいと思います。
船橋市通所リハビリテーション連絡会	森谷委員	「運動器3項目」に関して ＊LSA(Life-Space assessment) …加齢や移動能力の低下との関連が示されており、生活空間の狭小は虚弱の発生や運動機能に影響することが報告されています。LSAは、日本理学療法士協会から出されているE-SASの評価項目にあり 『この4週間近隣より離れた場所に１人で行きましたか？』 ＊厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準2013」より …「65歳以上の身体活動の基準」として「10メッツ・時/週」と出されていることから、『「10メッツ・時/週」の運動を継続していますか』 「口腔2項目」に関して 口腔に関しての設問は、専門と離れていたため、以下の内容を提案させていただきます。 ＊ソーシャルサポートに関する評価 …日本理学療法士協会から出されているE-SASよりLSN-6の設問より 『少なくとも月１回以上 顔を合わせる機会を持ち、掌側を取り合う友人は何人いますか』 ＊うつに関する評価(GDSより) 『外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか』	評価バッテリーとして ＊Dual-Taskに関する評価 認知機能と身体機能の両面から評価を行う「DGI(Dynamic gait index)」 ＊Timed up and go テスト ＊握力 →握力, Timed up and go テストは年齢ごとの数値がでている	検討項目①,②ともに重複する内容があり、また、・すでに、辻先生が作られた10項目とも内容が似通っている部分があるため、上記に列挙しましたバッテリー項目から抜粋していくのはどうかと考えました。 検討会の中で、参考までの資料として 挙げさせていただきます。 運動機能の項目の指定が多かったのですが、やはり、運動機能に加えて認知機能や精神機能面の問題が影響することが多いと感じており、上記の項目を挙げさせていただきました。 ご提示いただいた検討事項の意図に添えていますでしょうか？ 以上の文献など 資料は、必要でしたら検討会にお持ちいたします。 よろしくお願い致します。

船橋市栄養士会	織戸委員	栄養状態、口腔機能を中心に検討されますが、対象者の生活面や精神面も考慮しなくてはならないかと頭を悩ませます。 対象者が質問項目に対して、解答し、自己評価する気づきを理解しやすい媒体を用いると、明確に判断できるかと思います。 定期的（数か月毎など）なチェックを行い、今後の目標や改善項目が顕著に表示されると良いかと。 仮）「～手帳」とか 体重変動、歩行数、活動時間、行動変容、食事内容の変化等も		
船橋市リハビリセンター	鳥居委員	（身体機能） ・ふくらはぎが指で囲めるまたは隙間があるか ・以前よりも歩く速度が遅くなったと思いますか ・ウォーキングなどの運動を週1回以上しているか ・5分前のことが思い出せますか ・ここ2週間で理由もなく疲れたような感じはありますか （栄養） ・半年間での体重減少2～3kg以上 ・BMIが2.0未満 （その他候補：肉や魚を毎日食べるか、最近食事が減っているか、ムセることがあるか） <評価バッテリー> ・改めて、BMIも確認　2.0以上か未満か ・握力　男性26kg、女性18kg　の以上か未満か ・歩行速度　5m歩行　1m／秒以上か未満か		対象や目的が要介護認定率やフレイル予防とするのであれば、そのままフレイルの基準を当てはめていくのが良いと考え、以下のように案を記載しました。 運動習慣、歩行速度、記憶、精神、食べ物、食習慣など 高齢者がお互いの元気度として評価・話し合える内容かと思います。
船橋市立リハビリテーション病院	三浦委員			専門職による運動器チェックの対象者が、健康スケールの運動器3項目のうち1項目でも該当するよう、要支援1相当からフレイルに該当する者であると認識致しました。 そして、健康器スケールの中の運動器3項目に用いる質問項目などは、要支援1相当からフレイルに該当するか否かを判別できるようなものが妥当であること、さらに専門職による運動器チェックで用いる評価ツールなどは、要支援1相当からフレイルに該当するような者の運動機能低下あるいは障害を検出できるようなものが妥当であると認識致しました。